

序章 食の教育は可能か 江原絢子……………9

本書の構成と意図／学びとるもの——家庭・地域の教育力／
栄養素教育の優位性／マスメディアによる影響の大きさ

第1部 学び伝える 家庭・地域の場で

第1章 発達心理学からみた 無藤 隆……………20

乳幼児期・思春期の食体験

はじめに 20

- I ある事例から 21
- II 生後まもなくの母子の会話としての授乳 23
- III 乳児期の食の意味 24
- IV 乳児期における食事での道具使用 26
- V 家庭における母子の食事での会話 29
- VI 集団保育場面における会食の意味——一歳児の場合 32
- VII 集団保育場面における会食の意味——四・五歳児の場合 36
- VIII 食と親密性の形成 37

第2章 二本の棒、「箸」づかいから学ぶ食 酒井治子……………42

- I 家庭での子どもの箸への挑戦 43
箸を使い始める中での子どもの「食」の発見／
一食一食の食卓で育む箸づかい／
箸の持ち方を変えながら試す——子どもの多様な料理への挑戦
- II 描かれる家庭での子どもの食事と箸 51
- III 家庭での箸づかいの教え 55
- IV 保育所・幼稚園で育む箸づかい 59
保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる箸づかいの取り組み／
保育士にみる食教育における箸づかいの重要性の認識／
スプーン・フォークから箸へ
- V 箸の使いにくさが育てる「日本の食文化」 66

第3章 地域における食の伝承 今田節子……………70

- はじめに——食教育・食伝承の問題点 70
- I 日常食の特徴と伝承 72
食材料のだんどり／日常の食事／日常食の伝承
- II 非日常食の特徴と伝承 78

正月雑煮の伝承／祭りのすしの伝承／もてなし料理としてのすし

III 伝統的食生活の機能 86

IV 食伝承の変容と今後 87

第4章 「見よう見まね」という食の教育 神崎宣武……………93

I 諺での料理の伝承 93

II 共同炊飯での手ぎわの伝承 99

III 追いまわし修業からの伝承 103

第II部 教育から学習へ 公の場で

第1章 食教育の日米比較

—— 社会における食の教育の視点から

坂本元子……………112

はじめに 112

I 日本の食・栄養教育 116

日本の食・栄養教育は栄養素教育で始まる／食・栄養教育活動の実際

II 米国の食料・栄養教育 118

Extension Service の組織と活動／Extension Service System の教育組織／
企業の食教育

III 日米の食教育の実際 125

日本の例／米国の例

IV これからの課題 132

第2章 家庭科・家政学系における食教育 下村道子……………134

I 家庭科における食教育 134

戦後の小・中学校の家庭科の新設／高等学校家庭科の食教育／
総合的学習の時間の設定

II 大学・短期大学の家政系における食教育 144

家政学部の設置／ホームズ博士とアメリカの家政学／

大学の大衆化と資格志向／家政学のこれからの方向

おわりに 154

第3章 栄養指導から食の学習・食環境づくりへ

—— 国内外の多様な実践に学ぶ

足立己幸……………158

はじめに 158

I	自然から食卓まで子ども自身が構想し、実践する食事作りセミナー	161
II	高齢男性の「実物大そのまんま料理カード」を使った食事セミナー	166
III	フィリピン・ボホール島の主婦たちの教材「地域産食物ガイド」づくり	169
IV	栄養・食学習の「楽しさ」とその背景	175
V	生活行動の中での食の特殊性	176
VI	あらためて、栄養・食の学習とは？	177
VII	日本でもイメージ形成を重視した「食の学習」の多様な連携・ネットワークが動き出している	180

第Ⅲ部 食生活の主体者として 情報化のなかで

第1章 フードファディズムにみるマスメディアと食 高橋久仁子…184

はじめに	184
I フードファディズム	185
フードファディズムの温床／フードファディズムの種類／	

フードファディズムの問題点	
II 食情報の発信源——その特徴と問題点	188
家庭、地域、学校、行政、医療機関——対面式情報発信／テレビ——映像と音声による情報発信／出版——活字による情報発信／インターネット——映像・音声・活字の複合メディア／健康食品産業——マスメディアを介する情報発信	
III 食の基礎知識は今	192
食品の名前の知悉度／食物関連用語の理解度	
IV 食情報の選択	195
「無責任情報」の「責任情報化」／食生活への態度・実践状況と食情報の受けとめ方	
V そこそこの健康と、ほどほどの食生活	198
——食生活の主体者となるために	
食品や食品成分の「健康食品」化／上手に利用しようというけれど／不安扇動ビジネスの存在／「そこそこの健康」と「ほどほどに食べる」ということ	
おわりに——フードファディズムに陥らない教育	202

第2章 情報ネットワーク社会と食

——食MAPが広げる生活者の可能性

I 経験を共有する場

205

齋藤 隆……………205

総括

- 教育の不毛／意識と環境の潜在化／コミュニケーション・サイクル完結装置
II 市場進化とマーケティング情報システム——「食MAP」の誕生 210
市場進化とマーケティング情報システム／食MAPの開発／
食卓宇宙を観察する天体望遠鏡
III 生活を生産する時代 219
情報ネットワーク社会の意味／家庭版POS
おわりに 225

食の伝承・教育・情報

江原絢子……………

227

はじめに 227

I 食の伝承のかたち 228

II 学校教育の浸透と家庭・地域への影響 231

III 戦後の学校給食と伝統的食事の変容 235

IV 出版物にみる食の情報 242

おわりに 245

あとがき

江原絢子……………

253

執筆者紹介

装幀 市川美野里